

真相「風説の流布」

①公判直前「麻原」獄中指令に怯えた人々 ②逮捕された末野興産社長の「四人の愛人」 ③無理は承知でも「地震予知判定会」会長就任の溝上教授 ④妻子を捨ててカンボジア女性と結婚したPKO自衛隊員 ⑤英紙警告「携帯電話は脳に悪い」の波紋 ⑥恋人はロシア人説「栗原小巻」なぜ結婚しない ⑦「スヴェルト」に続いて新発売「瘦せる化粧品」過熱 ⑧「チェンマイ少女買春」で逮捕された高千穂商大助教授 ⑨絶望的な食糧危機で北朝鮮「五月」南侵説 ⑩「信平夫妻」学会告訴に踏みきる「池田レイプ」 ⑪「八百長」告発者突然死で「曙」の地位安泰 ⑫叙勲対象者から外される「住専」「大蔵」「官官」戦犯 ⑬東村山女性市議怪死の担当検事は創価学会員 ⑭不倫騒動に一本負けでも柔道「古賀」の五輪出場 ⑮従軍慰安婦強制連行「虚偽レポート」の元凶 ⑯普天間基地返還で「四十六億」ふいになる地主の「足踏み」 ⑰安中市役所「三十億」横領職員に「隠し金」疑惑 ⑱開幕早々クビ情報が出た「王」と「長嶋」 ⑲「麻原」大公判で「TBS」はどう出るのか ⑳天災か人災か「豊浜トンネル事故」補償の攻防 ㉑プロレスラー「前田日明」の新恋人はヘアヌード「石田えり」 ㉒フォードは「ババ」を引いたと言われた「マツダ」

読切時代小説

死に番

津本陽

TEMPO 26~49

- L 加藤税調会長よ、なぜ所得減税を打ち切る
- B 豊田達郎副会長を退任させるトヨタの「勇断」
- I パチンコしたくて強盗に及んだ老女の「熱病症候群」
- SP 今度は5連打KO 2年目「野茂」の壁
- S 美女「天海祐希」争奪戦の「醜態」
- SS 「未婚の母」をめざすマドンナの胸の内
- To アンドロリュー王子も離婚で英王室の「沈没」
- A 「20万円」のプレミアもついた3大テニール日本公演
- Bo 10億円贈与ゲームに仕掛けられた罠
- Tr 観光バスで訪ねる岐阜「秀吉」ゆかりの地
- G 魚河岸の次男坊が包丁を振るう「恭川」
- P 〈落語〉坪井栄孝(日本医師会新会長)ほか
- HS やつぱり起ったインターネットの「欠陥事故」

▼新句歌歳時記／多田道太郎……90 ▼新聞閲覧室……134
▼掲示板……100 ▼大人のマンガ……182 ▼ダイジェスト……130

MONEY タクシー券乱発は氷山の一角伏魔殿「東京都」の裏金 136
CLUB 「ホテル日航」が復活させたナイトクラブ「マグレフ」 74

黒い報告書 141

連載

- 花へんろ風信 28 嫁ぐ猫……早坂 暁 110
- ギヤラリー真吉／ニック・ファルドのスウィング たかが、されどテレビ 367 ビデオ事件便乗会：麻生千晶 72
- 聞いた日本見た日本 135 ニール・マーティン 112
- 休日美術館も開ける「特別待遇」—— 78

〔東京情報〕朝令暮改「官僚の保証」 152
短期連載小説 女の倫理 野坂昭如 94

グラビア
結婚150 ▼墓碑銘151 ▼囲碁・将棋88(解答)：148
カラい ◆タイの秋篠宮殿下、紀子さまは怒っていますしやいますよ5 ◆日本の「旧家」拾集 199
◆広島県竹原市・竹鶴家105 ◆日本式だった？ 控え目のヒラリー夫人／池田満寿夫「人間のすべて」／谷内六郎の世界 204
モノクローム ◆我こそは地震を当てる天才です／夏彦の写真コラム④「ラジオコラム」始まる13・19 ◆子供の言い訳のようだった安部英参考人／海外逃亡直前の逮捕／G.Wに楽しむ「官能スポット」案内／マイフライバシー／明治四十二年、日本一高かった浅草凌雲閣 187・194

代表質問

「親バカ」に呆れた判決

問 私語が目にあまる生徒を教師が平手打ちしたところ、生徒と親が学校を提訴し、福岡地裁は学校側に二十二万円の支払いを命じた。が、教育の問題を法廷で決着すること自体おかしい話です。



大橋幸・日本大学文理学部教授(社会学) 最近、この類いの判決が多いのは確かですね。詳しい事情は知りませんが、本来なら親が「こんな息子でお恥ずかしい」とか「学校に迷惑かけてすみません」と言うべきところでしょう。勿論、親が子供を厳しく叱った上での話です。ところが、今の親は子供が一方的な被害者だと思いついてしまう。タバコをやめられないのはタバコ会社のせいだという論理と同じ。人権意識が歪んだ形で肥大化してしまっているんですね。「親バカ」という言葉があります、これでは「バカ親」に他なりませんよ。問 お金で解決しては、生徒のためにもなりません。学校は集団生活の場であって、一人の生徒が邪魔をすれば、他の生徒たちが迷惑を被るのです。態度の悪い生徒の権利ばかりを拡大解釈するのは、いかにもバランスを欠くと思います。現実には、体罰を加えるより他ない生徒はいるわけで、彼らがみんな学校を訴えたとすれば、学校の予算はたちまち底をついてしまうでしょう。こうした問題を、金銭で解決するという判例ができ、それが定着するのはよくないことだと思いますよ。

のだったが、実情はどうなっているのだろうか。

「あの頃の柔道界でも一、二を争う美人選手だった」

と言われる妻の里美さん(三七)を古賀が見初めたのは十年前、まだ里美さんが高校生

のときだった。以後八年の愛を守って一昨年結婚にこぎつ

けたのだったが、先の事情通

によれば、

「最近、二人の仲は完全に冷めきっていた」

そこへ登場したのが件の愛人、山口幸子さん(三三) Ⅱ 仮名

Ⅱである。古賀がトレーニン

グに通っていたスポーツクラ

ブのインストラクターだっ

た。

「うちの娘は去年体育大を出

て、四月にそのスポーツクラ

ブに就職したんだけど、その

ときにはもう古賀さんがいた

そりで、娘は『柔道の古賀だ』

と言われても判らなかつたの

に、最初から古賀さんの方が

うちの娘に猛烈にアタックし

たみたい」

と言うのは幸子さんの母親

不倫騒動のあと
不機嫌な一本負けの古賀

真誌に撮られたんです」

僚友がドイツで戦っている

最中、古賀は父親の葬儀で郷

里の佐賀にいたはずの時期だ

った。

「この先どうなっていくか、

私は知らない。もう二人で決

めることなんじゃないの」

と幸子さんの母親は言う

が、では、里美夫人の方はど

うなのか。

「不倫問題については、あれ

からお互いにいろいろ話し合

いました。別居ということも

ありません」

と里美さん本人は言葉少な

だが、

「古賀との夫婦仲について

は、私たちも口出ししないよ

うにしているんです。里美も

よく電話はしてくるんです

が、そのことについては全然

話さないんです。でも、アト

ランタが終ってから、古賀と

も一度きちんと話をしたいと

思っています」

と言うのは里美さんの母親

である。

「ただ、世間様から見れば、

元のサヤに納まるというのが

いいのでしようが、そうなる

とは……。最悪の場合、まあ

縁がなかったんだな、と思う

しかないです……」

と目をうるませる。

「でもそうなら、古賀も

そうですけど、あの子の青春

の……青春の十年間は、何だ

ったというんですか!」

さて、こんなしこりを抱え

たままに臨むアトランタ、金

は期待できるのだろうか。

「世界選手権で古賀が優勝で

きたのは、ユンという最強の

韓国選手が怪我でリタイアし

たからです」

と柔道記者が言う。

「アトランタでも、今の古賀

じゃあ勝つてこない。今の古

賀は、正直言つて、勝負師の

顔をしていません」

従軍慰安婦強制連行 虚偽レポートの元凶

ジュネーブの国連人権委

員会は四月十九日、旧日本

軍の従軍慰安婦問題を含む

「女性に対する暴力」に関

する決議を採択した。報告

書は、日本に国家賠償や関

係者の処罰などを勧告して

おり、これでとうとう日本

は「世界史上、例を見ない

恥ずべき蛮行」をした国と

されてしまったかに見える

のだが……。

決議文の基になった報告書

は、スリランカの女性活動家

のラディカ・クマラスワミさ

んの手になるものだが、日本

政府は、従軍慰安婦問題を扱

った付属部分については削除

を要求していた。しかし、韓

国、北朝鮮、中国が激しく反

発し、報告書については「留

意する(テイク・ノート)」と

いう弱い表現に留める事がで

きたものの、

「日本の国家補償を求めると、慰安婦や支援団体は、勧告が削除されずに国連人権委の総意として記録されたことを大きな成果と受け止めている」と、朝日新聞が報じるように、「慰安婦強制連行」があ

たかも歴史的事実だったかのような、国連お墨付きの結果になってしまったのだった。毎日新聞は、日本政府の削除要求について、

「国連の慣行に反する強引な要求に、各国から批判の声が出ている」

と、まるで日本政府が不当な行動をしたかのような記事を掲載して、煽った。

「まったくとんでもない話ですよ。だいたい、肝心のクマラスワミ報告書そのものが誤認と誤断で埋められていて、学生のレポートなら落第点を付けざるをえないレベルの、お粗末な作品なのです」

というのは、近代史専攻の秦郁彦・千葉大学教授だ。

「実は昨年七月、調査に來日したクマラスワミ女史と面談し、一時間ほど英文のレジメを広げて説明したのです。私が強調したのは、まず、強制連行について日本側で唯一の証人とされている吉田清治は『職業的詐話師 (Professional Liar)』である。次に、元慰安婦の証言で、強制連行という客観的裏付けがとれたものは一例もない。そして、慰安婦の雇用関係は軍との間に

安婦を尋問した米軍情報部の報告書があるので、そのコピーを渡したのです。

ところが、女史の報告書では、私の論旨を正反対に歪めて、『秦郁彦博士は……大多数の慰安婦は日本陸軍と契約しており……と述べた』、となっていたのです。

そこで、訂正を要求する三月十五日付の申立書を本人と国連人権委員会事務局長へ送りました。最初は日弁連へ助言を求めたのですが、藍谷事務総長代行に拒絶され、外務省に頼んで届けてもらいました。結局、今に至るまでなんの返事も来ていません」

外務省も、クマラスワミ報告書には驚いたらしい。「あんなレベルの低い内容ではお話になりません。報告書

「喜んで絞首刑に」

それにしても、「慰安婦強制連行」が国連で決議された事実は変らない。「四年前、吉田は『近く国連に持ち込んで大問題にさせますよ』と言っていたんですけど、本当にそうなってしまったんですね」

と、秦教授。教授は吉田清治氏が書いた『私の戦争犯罪

・朝鮮人強制連行』の舞台で

ある済州島での「慰安婦狩り」を検証すべく、一九九二年三月、現地を回って調査したところ、地元の済州島新聞が該当の事実なしと全面否定した

記事を発見。担当の女性記者からは、

「何が目的でこんな作り話を書くんでしょうか」と、問い返されたという。

要するに吉田氏の「慰安婦狩り」の告白は、氏の経歴と同様、大半がデタラメといっているのだが、そうはいっても、「犯行」を自白しているのは彼一人だけ。そして先の報告書の勧告は、

「慰安婦、及び慰安所開設に関与した者を可能な限り特定し、処罰すべきである」といなのだ。となると、処罰第一号は氏を指していることになる。

「私はもう八十二歳。命なんて惜しくないんです。私が絞首刑になって慰安婦の怨みが

「強制連行」を「告白」した吉田清治氏と著書



全国各地にPR員募集!
TVゲーム業界 注目の
堅実収入
オリジナルチラシ 無料支給

仕事をやめても実績に応じて報酬が毎月支払われるのは、めっちゃすこいわ。ビジネスの決定版やね。

- ファミコンのチラシでPR (配布)すればOK。保証金は22万円(分割可)
- 注文はすべてPR員指定専用口座に入金。
- 商品発送・顧客管理は本部が実施いたします。
- 在庫負担のリスクなし。サイドビジネスでOK。在庫・仕入・店舗不要。電話器不要。

資料請求は住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、1,000円(千円)を同封して今すぐ下記までお送りください。

株式会社セト Z SS系 ☎075-881-0803
〒616 京都市右京区梅畑向地町25-15-SS

晴らされるなら、喜んで処罰
されますよ。しかし、私が処
罰されれば、私以外にも処罰
されなければならぬ日本人
はたくさんいるわけで、政府
としても困るでしょうから。
秦さんらは私の書いた本を
あれこれ言いますがね。ま
あ、本に真実を書いても何の
利益もない。関係者に迷惑を
かけてはまずいから、カムフ
ラージュした部分もあるん
ですよ。だから、クマラスワ
ミさんとの面談も断りました。
事実を隠し、自分の主張を混
ぜて書くなんていうのは、新

聞だつてやることじゃありま
せんか。チグハグな部分があ
つてもしょうがない」
と、当の吉田氏は相変らず
だが、秦教授に聞くと、
「いやあ、さすがに職業的詐
話師ですね。日本政府が事後
立法で吉田を処罰するなんて
ことはあり得ません。彼もそ
のところは分っている。つま
り、吉田はいかなる意味でも
安全なんですよ」
と呆れる。

読んでいましてね。こちらが
指摘したいところを先に言い
繕うんです。済州島の慰安
婦狩りにしても、今になって
「全羅南道でも同じ慰安婦狩
りをやった。その体験を混ぜ
て書いた。だからあれはフィ
クションです」などと言うわ
けです。じゃあ、全羅南道の
件はいつの話かと聞けば「そ
れは地元の人に迷惑がかかる
から言えない」とくる。彼は
自ら処罰を望んでいながら、
実際にはその「資格」がない
という、世にも珍妙な存在な
んですよ」

普天間基地返還で四十六億 16 ふういになる地主の足踏み

沖縄が最も強く求めてき
た米軍・普天間基地の全面
返還が発表されたのは、四
月十二日夜のことだった。
思いがけぬ朗報に、県民の
誰しもが諸手を上げて大喜
びかと思いきや、いささか
浮かぬ顔の人たちがいる。
二千七百七十五人の基地の地

主たちである。何しろ、年
間四十六億円にも上る地代
が入らなくなるのだから、
その胸中は複雑なのだ。
「十二日の夜は宴会に出てお
つたら、そこへ地元紙の記者
さんから電話が入ったんです
よ。普天間基地の返還が決

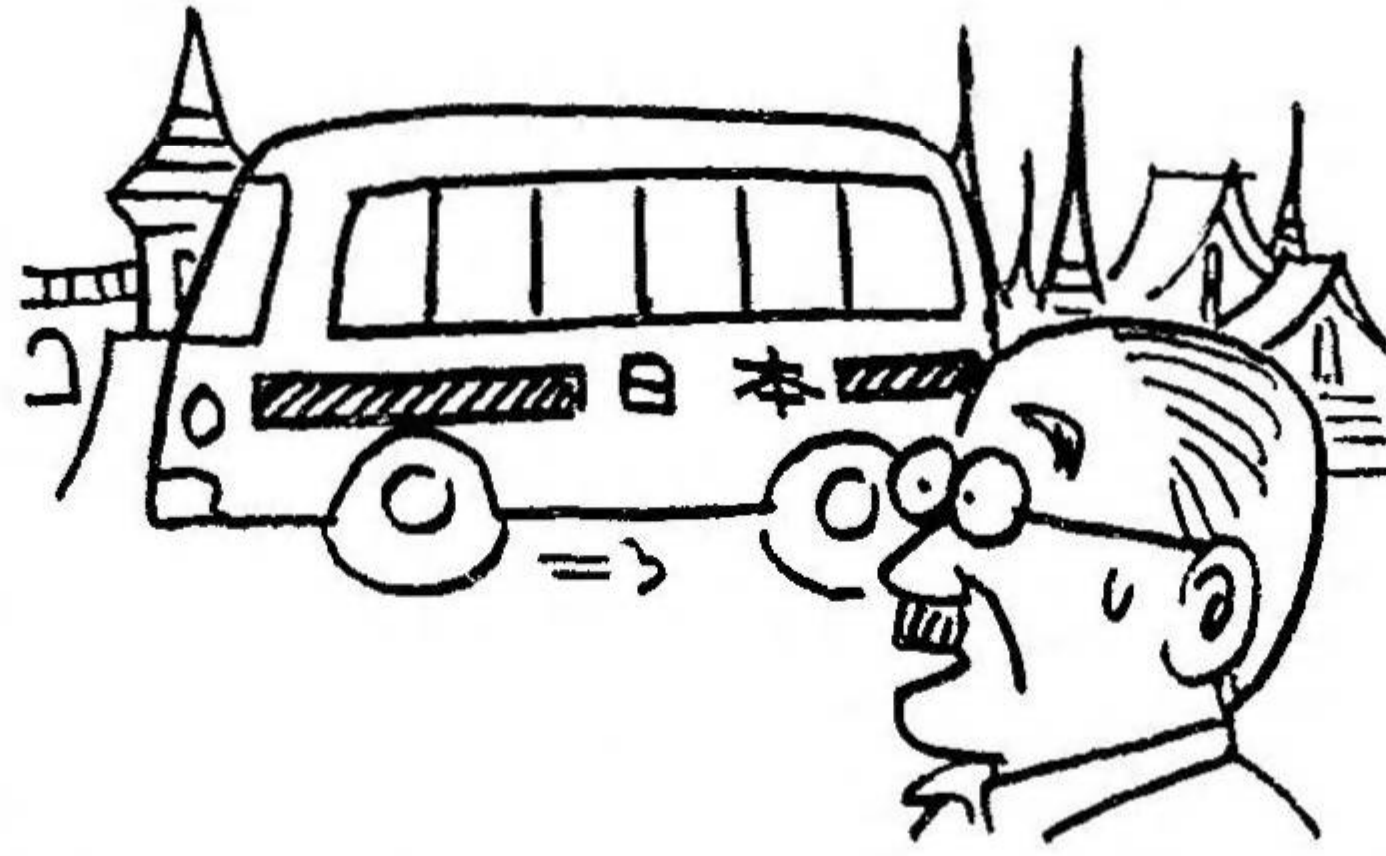
つた」と言うのだから、もう
ビククリして、すぐには信じ
られず、何度も尋ね直して、
ようやく「うれしい」と感想
を口に出来たのです」
と、未だ興奮さめやらぬ様
子で語るのは、基地に隣接す
る宜野湾市立普天間中学校の
棚原正栄校長である。

物流・BUTSURYU・BUTSURYU・BUTSURYU・BUTSURYU・BUTSURYU・BUTSURYU・物流

「ミヤンマーのはとバス」

斎藤 茂太

(精神科医・日本旅行作家協会会長)
ミヤンマー(ビルマ)を南北に
流れる大河、イラワジ河に川船
が運航するというのでその第一
船に乗りに行った。



扉にも日本語で自動扉とあり、
座席に坐るとシートベルトをお
締め下さいという注意書きが目
に入った。

これで驚くのは早かった。市内
を走る定期バスは「川崎臨港バ
ス」だったし、パガンで乗ったバ
スは「知多バス」だったし、「大
阪エアポートバス」も走っていた。
街では浜松のナントカ株式会社

社のトラックや立
川のナントカ電気
商会のトラックも
みた。もっと驚い
たのは「はとバス」
がそのままの塗装
で走っていたこと
である。中には結
婚式場やキノ展
示会のポスターを
そのまま貼ったバ
スもあった。

パガンで落日をみるた
めに最も高いパゴタに登
った。日本語のうまい婦
人に話しかけられた。東
京に住んだことがあると
いう。商売は日本から中
古の車を輸入して販売し
ているという。その日本
車がかつての塗装のまま
走っているのがおもしろ
かった。

(社)日本物流団体連合会